

小学校第 5 学年 社会科学習指導案

日 時 平成 28 年 6 月 21 日（火） 2 校時
指導者 教育センター所員 浦 貴仁

1 単元名 「わたしたちの国土 ～寒い土地の暮らし～」(東京書籍 5 年上 pp. 52-61)

2 単元について

- 本単元は、学習指導要領の 5 年生の内容（１）イの「我が国の国土の自然などの様子について、国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えることができるようにする」を受け設定したものである。具体的には、国土の南と北、太平洋側と日本海側での気温や降水量による気候の違いといった特色があり、それぞれの地域で暮らす人々は自然環境に適応しながら工夫して生活していることを取り扱う。本小単元では、自然環境と産業、人々の生活の工夫との関連について調べ考えさせるために、特色ある気候の事例地として寒い気候の地域を取り扱う。比較的温暖な気候の佐賀県に住む児童にとって、寒さが厳しい北海道十勝地方の生活、産業、文化といった特徴を調べ、佐賀県のそれらと比較することは、自然環境と生活との関連、人々の工夫や努力への気付きが得られる機会になると考えられる。また、気候の特色や人々の生活、産業の様子など調べたことを関連付けたり、総合的に考えさせたりすることで、社会的事象の意味について考えることにもつながると考え、本小単元を設定した。
- 本学級の児童は、資料を活用して、学習問題について調べたり、考えたりする学習の経験はある。しかし、資料を見て、気付いたことや疑問に思ったことを基に、自分たちで学習問題を設定する経験は少ない。前単元「低い土地の暮らし」においては、児童は学習問題を設定し、調べる活動を行った。教師が提示した資料から気付きを出したり、疑問をもったりすることはできたが、それらを関連付けて学習問題を設定することはまだまだ難しい様子であった。また、低い土地に住む人々が水害から生活を守るために取り組んでいることを調べ、土地の低さと産業や人々の生活の様子とを関連付けて考えることはできたが、低い土地に住む人々が低い土地の特徴や豊富な水量を生かした生活をしているのかについては、自分の考えを表現することは難しかった。
- 指導に当たっては、「学習問題をつかむ」過程で、児童に北海道十勝地方の家やまちの様子の写真を見せ、佐賀県の 1 月に降った雪の様子や佐賀県の冬の生活と比較させることで、気付きや疑問、予想を出させながら学習問題の設定につなげるようにする。比較的温暖な佐賀県に住む児童にとって、寒い土地の生活は具体的にイメージしにくいと考えられるので、1 月に佐賀に大雪が降ったこと、40 年ぶりの大寒波による生活への影響を想起させるなど、佐賀県の気候や生活と比較させながら、資料を提示するようにする。資料を基に、児童から気付きや疑問、予想を引き出したり、問い直ししたりしながら、問いの形に直し、問い同士を関連付けて構造化して板書していくことを通して、単元の見通しをもたせていくようにする。
「調べる」過程では、学習問題の設定のときに出された問いを中心に調べ活動を行わせることを通して、調べた事実同士を関連付けて考えさせるようにしていきたい。常に学習問題を意識しながら調べる活動を進められるように、毎時間、学習問題についての考えを記述させる時間を設定する。その際、追究意欲の持続を図るために、新たに調べたいと思うことを考えさせるようにする。
「考え・まとめる」過程では、学習問題についての自分の考えを、これまでのワークシートの記述を振り返らせ、記述させるようにする。その際、記述内容を評価する基準を提示することで、まとめる際の目標をしっかりとめさせるようにする。まとめる記述を、これまでの記述と比較させることを通して、単元全体を通した学びの深まりを実感させたい。

3 単元の目標

寒い土地の人々の生活や産業の様子について、写真やグラフなどの各種資料を活用して調べ、寒い土地に暮らす人々の寒さから生活を守る工夫や寒さを資源とした取組が分かり、気候条件と人々の生活や産業との関わりについて考えるようにする。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
- 寒い土地に暮らす人々の生活や産業に関心を持ち、意欲的に調べている。 - 気候条件と人々の生活や産業との関わりについて、具体的に考えようとしている。	- 寒い土地に暮らす人々の生活や産業について学習問題と学習計画を考え、発言したり、ワークシートに記述したりしている。 - 気候条件と人々の生活や産業との関わりについて考え、寒い土地の人々の生活や産業には気候条件に適応した様々な工夫があることをワークシートに記述している。	- 寒い土地に暮らす人々の生活や産業について写真やグラフなどの資料を活用して、必要な情報を集め、読み取っている。 - 調べたことを整理してワークシートにまとめている。	- 寒い土地に暮らす人々の寒さから生活を守る工夫、寒さを資源とした取組や気候を生かした農業の工夫などを理解している。 - 寒い土地の人々が、気候条件に適応した生活や産業の工夫をしていることを理解している。

5 指導計画（全 5 時間 本時 1 / 5）

過程	主な学習活動（○）	教師の働きかけ（○）	評価（・）評価の観点【】	時配
学習問題をつかむ	○寒い土地の生活に関心を持ち、学習問題を設定し、調べる計画を立てる。	○児童の気付きや疑問を基に、学習問題を設定できるように、児童の発言やつぶやきに「なぜ？」「本当？」と問い返したり、新たな資料を提示したりする。 ○児童の追究意欲を高めるために、異なった予想や気付きを取り上げ、全体で考えを交流しあう時間を設定する。 ○児童から出た気付きや疑問、予想を基に学習問題を設定できるように、板書からキーワードを見出させ、そのキーワードを基に学習問題の設定につなげていく。	・寒い土地の人々の生活や産業について学習問題と学習計画を考え、発言したり、ワークシートに記述したりしている。【思】	1（本時 1 / 5）
北海道十勝地方では、寒さからくらしを守るためにどのような工夫をしたり、寒さをどのように生かしたりしているのか。（学習問題）				
調べる	○十勝地方の家やくらしの工夫について調べる。 ○十勝地方の農業について調べる。 ○十勝地方の寒さを生かす取組みについて調べる。	○見通しをもって、調べる活動に取り組ませることができるよう、1 時目の学習内容を分かりやすく示した図（構造図）を掲示しておく。 ○調べた事実同士を関連付けて考えさせることができるよう、構造図を基に調べた事実を確認する。 ○調べた事実同士を関連付けて、学習問題について考えさせることができるよう、毎時間、学習問題についての自分の考えを記述する時間を設定する。	・寒い土地に暮らす人々の生活や産業に関心を持ち、意欲的に調べている。【関】 ・寒い土地に暮らす人々の生活や産業について、写真やグラフなどの資料を用いて必要な情報を集めて読み取り、ワークシートにまとめている。【技】 ・気候条件と人々の生活や産業との関わりについて、具体的に考えようとしている。【関】	3

		○教科書や資料集の資料だけでなく、教師自作の資料を与えるなど、追究活動への意欲を高めるようにする。 ○調べた事実を関連付けて、学習問題についてより深く考えさせるために、新たに調べたいと思う事柄を問いとして出させていく。 ○調べる活動に意欲的に取り組むことができるように、学習問題の記述に対し、コメントを書く。	・寒い土地に暮らす人々の寒さから生活を守る工夫、寒さを資源とした取組や気候を生かした農業の工夫などを理解している。 【知】	
考え・まとめる	○学習問題について、自分の考えをまとめる。 ○まとめの文を読み直し、これまでの学習を振り返る。	○これまで調べた事実同士を関連付けて考えさせることができるように、ワークシートの記述を振り返らせる。 ○学習問題について自分の考えを記述させやすいように、評価の具体的な内容を示す。 ○単元を通した自分の考えの深まりを実感させるために、まとめの文をこれまでのワークシートの記述と比較させる。	・気候条件と人々の生活や産業との関わりについて考え、寒い土地の人々の生活や産業には気候条件に適応した様々な工夫があることをワークシートに記述している。 【思】 ・寒い土地の人々が、気候条件に適応した生活や産業の工夫をしていることを理解している。 【知】	1

6 本時の目標

写真やグラフなど資料からの気付きや疑問、予想を出し合いながら、学習問題を考え、視点（寒さから守る、寒さを生かす）を基に学習問題を解決するための問いを考え、表現できるようにする。

【社会的な思考・判断・表現】

7 指導の視点

「学習問題をつかむ」過程となる本時は、児童に全5時間の単元の学習に問題意識をもたせ、今後の調べる見通しをもたせる上で大変重要である。資料から気付きや疑問、予想を児童に出させていきながら、それらを関連付けて学習問題を設定していく活動を行わせることで、これから調べていくことを問いとして捉え、調べる計画を立てさせることができると考える。

8 展開

学習活動	教師の働き掛け（○）と評価【】
1 これまでの学習を振り返り、めあてを確認する。	○本時のめあてをつかみやすくするために、前単元の学習を振り返らせ、学習問題や学習問題についてまとめた経験を想起させる。
めあて 学習問題をつくり、学習の計画を立てよう。	
2 資料や写真から、佐賀県と北海道帯広市（十勝地方）の気温と降水量の違いを読み取る。	○本時のめあての達成基準を明らかにし、授業最後の具体的な姿をイメージできるように、本時では単元を通して調べていく問いをたくさんつくることを伝える。 ○佐賀県と北海道十勝地方の気温と降水量の違いを実感を伴って感じられるように、グラフだけでなく、今年1月の佐賀県内の雪の日の写真を見せ、当時の様子を想起させたり、佐賀県の冬のくらしと比較させたりする。 ○十勝地方の夏の涼しさを実感を伴って理解させるため

3 北海道十勝地方の家の写真やグラフを見て、気付きや疑問を出し合う。 ・窓が2重 ・大きな灯油タンク ・窓が小さい ・断熱材 4 寒い土地に暮らす人々が寒さからくらしを守るだけでなく、生かしていることはないかを予想する。 5 学習問題を設定する。 北海道十勝地方では、寒さからくらしを守るためにどのような工夫をしたり、寒さをどのように生かしたりしているのか。 6 学習問題を解決するための問いを出し合い、調べる計画を立てる。	に、今（6月）の佐賀県の気温と夏の十勝地方の気温とをグラフを見て比較させる。 ○十勝地方の冬の寒さを実感を伴って理解させるために、1月24日の佐賀県の気温と十勝地方の1月の平均気温とをグラフを見て比較させる。 ○気付きや疑問を寒さへの対応へ焦点化していくように、佐賀県との気温との違いに着目するような発問を行い、気温の低さに着目させる。 ○家のつくりに着目させるために、異なった児童の予想を取り上げ、全体で予想を交流する活動を設定する。 ○資料を見て、全体で気付きや疑問、予想を共有することができるように、電子黒板を使い、資料を提示する。 ○児童の思考の流れに合わせ、発言やつぶやきから、適切な資料を提示するようにする。 ○寒さへの対応だけでなく、生かす取組にも目を向けやすいように、「寒さからくらしを守るばかりで大変だね」「寒さが厳しいけど、何かいいことないのかな」など、児童の思考を揺さぶる声掛けをする。 ○児童が自分たちで学習問題を設定しているという意識を高めるために、教師の発問に対する気付きや疑問などを色分けして、構造的に板書していく。 ○児童の追究意欲を高めるために、予想に対して「本当?」「どうして?」「調べないと分からないね」と声を掛け、疑問や予想を板書していく。 ○本時の学習の流れを生かして、学習問題を設定することができるように、キーワード（「寒さ」「守る」「工夫」「生かす」など）に着目するように声掛けを行う。 ○単元の学習に対する見通しをもたせるために、本時の板書を見直させ、学習問題解決のための問いを考えさせる。 【評価】 ○考えた問いの数を確認し称賛することで、本時のめあてに対する評価をし、次時への意欲付けを図る。 ○記述した問いを発表させながら、視点「寒さから守る」「寒さを生かす」に分けながら、価値付けを行う。
---	--

9 本時の評価

評価規準	複数の資料から気付いたことや疑問に思うことを出し合いながら、視点（寒さから守る、寒さを生かす）を基に、学習問題を解決するための問いを考えることができるか。 【社会的な思考・判断・表現】		
判断するめやす（判定基準）	十分満足できる状況(A) 判定基準Bに加え、新たな問いを記述したり発言したりすることができる。	おおむね満足できる状況(B) 学習問題について、本時に出された気付きや疑問、予想を基に問いを記述したり発言したりすることができる。	努力を要する状況(C) (B)に達していない記述・発言
→(B)、(C)と判断した児童への支援		→本時に出された気付きや疑問以外に調べることはないか考えてみるように、声掛けをする。	→板書や視点を基に、問い掛けを行い、予想を促す。
評価方法	ワークシートの記述，発言の内容		